

大阪府下の二大New Townの比較

35期生

I テーマ設定の理由

僕は泉北ニュータウンに住んでいる。ここに来て6年目になる。

大阪府にはもう1つの大きなニュータウンがある。千里丘陵に造成された千里ニュータウンである。泉北より先に開発された千里ニュータウン。この府下2つのニュータウンを比較した場合、そこにどんな違いがみられるであろうか。このことが僕の興味をひいた。

II 研究方法

次の様に分けて、それぞれ比較を行う。

※ ニュータウン (NewTown) を頭文字をとって「NT」と略し、以下、「千里NT」というように使う。

[1] 自然環境面での比較

- (1) 緑地・公園の面積、密度
- (2) 動植物の種類、分布
- (3) その他 地形等

[2] 社会面での比較

- (1) 構造・構成
- (2) 公共・公益施設及び機関
文化・医療等の施設や交通機関、行政サービス等
- (3) その他

III 研究結果

—概要— (人口等はS55年4月現在)

千里NT

位置：吹田・豊中市にまたがる標高20~130m

の千里丘陵のほぼ中央部

総面積：1160万m²

交通：北大阪急行、阪急千里線、阪急バス

戸数・人口・人口密度：38939戸、
122247人、10538.5人/km²

土地利用：住宅 43.7%

公園・緑地 23.7%

道路 22.0% 教育施設 6.60%

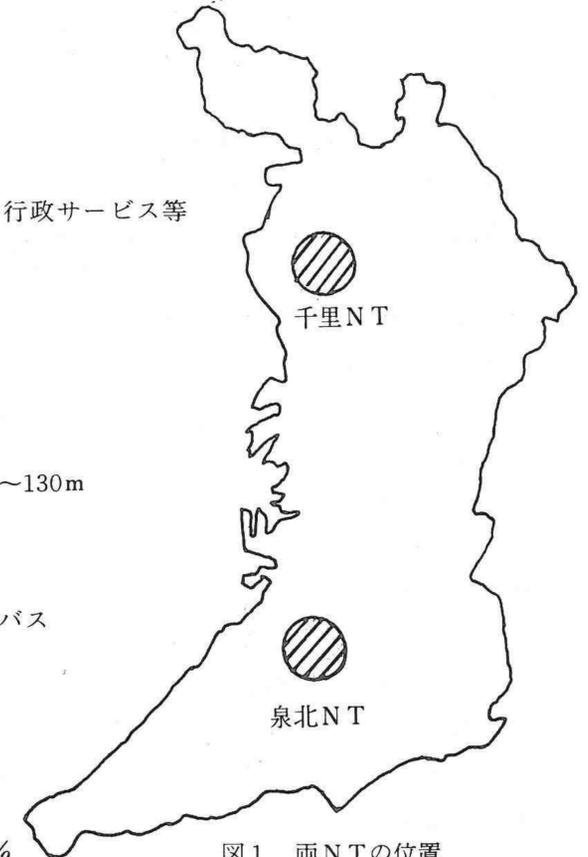


図1 両NTの位置

商工施設 4.00%

泉北NT

位置：堺市と和泉市の一部の標高50~130mの
3つに分かれた丘陵部

総面積：1520万m²

交通：泉北高速鉄道、南海バス

戸数・人口・人口密度：41962戸、138377人、
9103.8人/km²

土地利用：住宅 44% 公園・緑地 22%
道路 22% 公益施設 6%
商工施設 6%

〔1〕自然環境面

(1) 公園・緑地

	千里	泉北
公園・緑地面積 (万m ²)	278.4	33.4
率 (%)	23.7	22
密度 (m ² /人)	18.1	21.3

参考までに他都市と比較すると、(m²/人)

大阪市	1.37	東京都区部	0.99
Paris	12	London	10.5

〔考察〕

他都市との比較からでも分かるように、いかに両NTの公園・緑地が多いかである。上の数値だけでは両NTに大きな差は表れていないが、分布には大きな違いが見られる。

第2図に見られるように、千里の場合、他地域と接する所に緑地帯を設け、周辺からのスプロールに影響されない「純粋なNT」計画であるのに対し、泉北の場合は、中央に緑地の軸線(緑道)をもってきてむしろ「周辺の開発になじんできよう」という計画であることがうかがえる。

そして、千里のような構造を「クローズ型NT」、泉北のそれを「オープン型NT」と呼ぶ。

(2)、(3) 省略

〔2〕社会的

(1) 構造・構成

千里NT 右へ行くほど小規模になる () 内は個数

地区(3) — 中学校区 — 近隣住区(2) — (近隣分区) — 近隣グループ

泉北NT 千里と同じく

地区(3) — 近隣住区(6) — 近隣地区 — 近隣グループ

類似・相違点

両NTともによく似た構造だが、泉北は中学校を2校区(校区=小学校1校 住区に



図2 公園緑地系統

よって小学校2校のところがある)に1校としたため、千里のような2住区=中学校区という構造はしていない。

また、千里では、初め分区が構成単位であったが、小学校の高低分離システムが実現しなかったため分区のもつ意味が薄れ、代わって住区がNTの構成単位となった。

つまり両NTとも 地区—住区というつながりが大きい。



図3 千里NT



図4 泉北NT

それぞれの地区・住区にはそれぞれ地区センター・近隣センターがおかれている。

地区センター：住民全体の日常生活の中心として、商業施設を主体に各種の都市的サービス施設を設置。地区ごとに特色がある。(両NTとも各地区に1)

近隣センター：市場・スーパーマーケット・店舗を中核として構成。ショッピングセンター的な色彩を強く打ち出している。公共的なものとして、郵便局・巡回派出所・住区診療所・集会所・公衆浴場等が設けられている。

地区センターが比較的都市的商品の需要を満たす場であるのに対して、近隣センターは生鮮食品など日常的な買い物の場である。(千里では住区に対して1又は2。泉北では診療所は別に隣接、あるいは少し距離をおいて設置されている)



図5 地区構成図

(2) 公共・公益施設及び機関

施設系統一覧

(千里NT)

施設	各種施設 名称	住 区 構 成						備 考
		近隣 G	近隣 分区	近隣 住区	中学 校区	地区	合計	
道路 交通 施設	各種道路			○	○	○	○	主要幹線道路 一般 ・ 住区内 ・ 区画街路 細街路
	交通施設	○	○	○	○	○	○	バスストップ バスターミナル タクシー乗り場 駅
公園 緑地	幼児公園 (PL)	1	15	30	60	130		(独立住宅) (共同・)
	児童公園		5	10	20	40		
	近隣 地区		2	4	8	16		
				1	2	4		
学校 教育	幼稚園	0~1		1	2	4	13	
	小学校			1	2	4	14	
	中学校				1	2	8	
	高等学校					1	4	短大
商 業	購買施設			1	2	10		独立店舗群 スーパー(小) ・(大)
				1	2	4		
医 療	一般医院			6	12	25	60	
	歯科医院 総合病院 保健所			2	4	10	21	医療センター 等を含む
文 化	図書館 ・分室						2	
	市民センター					1	1	
運 動	体育館						1	
	ボール 野球場						2 3	
福 祉	老人福祉施設 保育園(所)	0~1		1	2	4	3 10	
公 益	市役所出張所						2	各市1ずつ
	特定郵便局			1	2	4	15	
	普通 電報電話局						1	
	消防所						1	
	出張所 派出所					1	3	

(泉北NT)

施設	各種施設 名称	住 区 構 成					備 考	
		近隣 G	近隣 地区	近隣 住区	地区	合計		
道路 交通 施設	各種道路	○	○	○	○	○	都市計画道路 住区幹線道路 区画道路 細街路	
	交通施設			n	n	n	104	千里と同じ
公園 緑地	幼児公園 (PL)	1						約100
	児童公園		1	1~2			21	
	近隣 地区			1			13	
					1~3		6	
学校 教育	幼稚園	0~1	1~2				19	各学区に1~2
	小学校		1~2				20	1校を1学区
	中学校		0~1				10	2学区に1校
	高等学校				1~2		6	短大
商 業	購買施設				1		4~8	独立店舗群 地区センター 商店街
							1	
医 療	一般医院			3~7	12~43		75	
	歯科医院 総合病院 保健所			1~2	8~12		35	2 1
文 化	図書館 ・分室						1	
	市民センター				1		2	
運 動	体育館						1	(計画中)
	ボール 野球場						1 2	
福 祉	老人福祉施設 保育園(所)			0~1			4 15	1~2学区に1
公 益	市役所出張所						1	3
	特定郵便局						3~8	14
	普通 電報電話局							1
	消防所							1
	出張所 派出所					1~2		4

〈考察〉

① 公益施設一般

学校や市役所関係・消防・警察・郵便などの日常生活上不可欠である「基本的な施設」は両NTとも一応揃っており、あまり較差は見られない。しかし、それ以外の「生活を充実させる施設」については、文化・運動施設などに見られるように千里NTの方が優れているものと思われる。(現段階で)これらの理由として、

- ・千里は泉北より基本的に10年程早く完成したので、その分だけ後で造られる施設が多い。——開発の時差による“肉付け”の差(千里記念事業など)
- ・泉北は堺市一市が施設を造るのに対して(市立図書館等の市立施設)、千里は吹田・豊中両市がそれぞれ施設を造るとするとNT全体として施設数が多くなる。——立地による行政機関の差が挙げられ、前者の方の影響が強いと思う。

② 文化

図書館等については①で述べた通りだが、文化講座・教室と視野を広げてみると、正確な数は分からなかったが、ここでも千里の方が種類・数においても多く優れている。

その理由としては、千里NTの地が大阪の副都心的要素を持っている点であり、その条件として交通の要所にある点である。交通の便が良いということは人を集めやすいことにつながり、そこに大阪の副都心としての文化施設(千里朝日会館・よみうり文化センター等)がつくられたものと推測できる。こうしたNT外からも人を集められる千里の文化施設に対し、NTの住民が中心である泉北の文化施設には都心的なものは少なく、ここに両NTの文化面での決定的な違いがあるといえよう。

③ 医療

千里より戸数・人口が多い泉北では医院の数が多くて当然だが、総合病院・医療センターの数が少ない。もちろん、数と機能が重要なものであって機能についてはここからは分かりかねるが、それにしても少ない。

各種医院では、この表に載せることはできなかったが、歯科・内科・小児科・外科・産婦人科まではだいたいバランスがとれている。(住区・人口比に対して)ところが、眼科・耳鼻科・その他特殊医療については、医院数は同数あるいは千里の方が多く、機能まで分かりかねるとは言いながら、少し深刻な問題である。

総じて、医療については千里の方がやや優れている。

④ 交通

交通においては、両NTとも在来の鉄道でない新しい別会社が運営しており(千里には阪急千里線もある)、第3セクターということは、NTの鉄道輸送は一筋縄ではいかないことを物語っているように思う。余談だが、北大阪急行は万博輸送で稼いでほとんど元を取り、現在では“安い鉄道”となっているのに対し、泉北高速鉄道は“日本一高い鉄道”と呼ばれ悪名高い存在になっている。鉄道輸送に対しても万博は大きな役割を果たしたと言える。

バス輸送について、両NTとも駅を中心とした循環・ルートが形成されており、そして泉北の方がバスストップの密度が高い。

道路については、千里は新御堂筋線と中央環状線—中国自動車道との交点にあっているのに対し、泉北にはそうした大規模な幹線は見当たらないように思う。

総じて、交通については“地の利”からしても、千里の方が優れている。

IV 結 論

現段階において千里NTと泉北NTとの違いの要因は

- ・立地場所からくる“地の利”
- ・開発からの経過時間

の二つに絞られるだろう。

千里はその地の利から「住宅地」の他「副都心」としての一面をのぞかせ、泉北は千里に比べると（純粋な？）「住宅地」というイメージを受ける。

また、千里は建設から20年を数え、それだけ文化・その他の面で充実したものを備えてきて、落ち付いた“街”という感じである。数年遅れて建設が始まった泉北は、まだ“あわただしさ”というか、千里のような落ち着いた雰囲気はまだあまりでていないと思う。そして、事業が大幅に延期されたこともあって、人口変化・人口ピラミッドなどを見ても、千里の後を10年遅れて追っているのが泉北の現状ではないだろうか。

しかし、遅れて建設されただけに、千里での“試行錯誤”をふまえた上なので、工夫されている面もかなりあり、施設の充実と共にそれぞれが浮き彫りにされてくると思う。そして、その時が本当のNTの比較であると思う。

V 感 想

一応研究を終えて改めて比較について考えてみると、もっと数値的——指数で表わした比較をやってみた方がよかったと思う。しかし、泉北NTの今度の充実度は未知数の面もあり、逃げ口上のようなのだが、NTの充実期の教値・指数による比較が望ましいと思う。

また、施設などについては、数だけでなく規模・機能についても考慮するのが本当だが、規模・機能まで扱い切れなかった。それほどNTの比較は難しいと言ってしまうとそれまでだが、努力不足な面もあった。

今年で自由研究も終わる。1年ごとにテーマも方法もがらりと代え、分野まで違ったが、今年が一番よかったものではなかったかと思う。これからも何か1つテーマを決めて研究していきたいと思う。

○ 参考文献

- 地図 昭文社 エアリアマップ ②⑥泉北ニュータウン。②⑦千里ニュータウン
文献 新都市の創造—ニュータウンと臨海工業地帯— 大阪府企業局
新しきふるさと 千里ニュータウンの20年 学芸出版社 他